

アルゼンチン治安情勢（2014年7月－9月期）

1 治安情勢及び一般犯罪の傾向

（1）一般治安情勢

ア 当国では、2008年以降、未成年者犯罪と麻薬関連犯罪の増加、ビジャ（スラム街）が増大していること等によりブエノスアイレス（以下「ブ」）州及び「ブ」市を中心に治安が悪化したと見られている。当地の治安当局の犯罪統計は「2008年版犯罪統計資料」が最新であり、その後の統計は発表されていないが、世論調査等によれば治安の悪化は国民の最大関心事となっている。最近では、従来治安がよいとされてきた地区でも武装強盗事件が頻発しており、地域住民による治安改善を要求する独自の抗議行動も時に行われている。

イ 最近、当地において、強盗やひったくり等を目撃した一般市民が、その場で犯人を捕まえて、警察などの到来を待たずに、直接、集団で犯人に対して暴行（リンチ）を加える事件も時として発生している。報道によると、背景にあるのは、一般市民が政府に治安の改善を要望し続けているにもかかわらず、強盗犯罪等がまったく減る気配がないことに市民が業を煮やし、一般市民自らが犯罪者に対し、制裁という名の暴行（リンチ）を加えていると報じられている。

（2）緊急事態発生の可能性

ア 政府の政策や治安などの社会問題に抗討する大規模な抗議行動や、2013年12月に全国各地で発生したスーパーマーケットや小売店への略奪行為などのように、国内において一時的な混乱が生じる可能性は否定できない。しかし、フォークランド（マルビナス）紛争後、軍が力を失っていること及び民主主義体制が定着してきていることから、このような一時的な混乱が、戦争、内乱及びクーデター等へつながる可能性はほとんどないと考えられる。

イ 北部、西部などのアンデス山脈に近い地域では、比較的規模の大きな地震が発生することがあるが、人口希薄なこともあり、多くの被害者を生む大災害となることは稀である。同地域では、時として火山の噴火もあるが、航空交通に支障が出ることはあっても、緊急事態に至ったことはない。2013年4月初旬、「ブ」州ラ・プラタ市を中心に、記録的な集中豪雨による大規模な洪水被害（死者は89名）が発生し、本年6月末から7月初めにかけてミシオネス州をはじめとする北部4州で同様の大規模洪水被害が生じるなど、豪雨に伴う洪水はしばしば発生しており、注意を要する。

（3）一般犯罪の傾向

報道等によると、最近多発している犯罪形態は以下のとおりである。なお、これらの事件には未成年者や麻薬中毒者がかかわることも多い。殆どの場合、犯人は拳銃等の武器を所持している。最近では拳銃や猟銃のほか、自動小銃（ア

サルトライフル)や機関銃を使用した犯罪も報道されているため注意を要する。

- ア 「モトチョロス」と呼ばれるバイクを使用したひったくり強盗
- イ 路上強盗(銀行から現金を引き出した直後の人物に対する強盗事件が頻発)
- ウ 家主の外出時や帰宅時に隙を突いて行う待ち伏せ強盗
- エ 武装した複数犯による侵入強盗
- オ 車両強盗(武装した犯人が走行中の車両を強引に停止させて行う強盗)
- カ 車両窃盗
- キ 誘拐(短時間誘拐が頻繁に発生)
- ク 強姦(夜間、早朝時間帯)
- ケ マリファナ、コカイン等の大量密輸及び不法所持
- コ いわゆる「ひったくり」
- サ 置き引き
- シ 「マスタード」強盗
- ス 「ピラニア」強盗(路上強盗の一種で、集団で襲い金品を強奪する。)

2 殺人・強盗等凶悪犯罪の事例(今期、当地にて報道された凶悪犯罪の一部を抜粋)

(1) 強盗

ア 8月14日17時頃、「ブ」州ラプラタ市において、銀行前で現金輸送車から2名の警備員が降りたところ、車に乗った3人組の武装強盗に襲撃され、輸送車ごと盗まれた。輸送車は事件現場から3ブロック離れた場所で発見され、車内にあった現金袋10袋が盗まれていた。警察によると、被害額は250万から300万ペソにのぼるとされている。

イ 8月28日17時頃、「ブ」市パレルモ地区において、携帯電話販売店に3人組の強盗が押し入り、スマートフォンや携帯電話を強奪する事件が発生した。通行人の通報により駆けつけた警察官が逮捕しようと追跡したところ、犯人グループとの銃撃戦となり20発以上の銃弾が飛び交う事態に発展したが、幸いにも一般人の被害は無く、犯人グループは逮捕された。(当館注：事件現場は、ショッピングセンターや店舗が並ぶ繁華街であり恒常的に人通りも多く、館員を含む在留邦人も頻繁に買い物等に訪れる地区である。)

ウ 9月7日0時30分頃、「ブ」州ラヌス市において、自宅前で友人と会話していた15歳の少年が、強盗団の発砲した銃弾に当たって死亡する事件が発生した。強盗団は、少年の自宅から80メートル離れたところで、車輛強盗目的で運転手を襲撃した際に発砲し、その銃弾が少年に当たったものである。その後、強盗団はそのまま何も盗らずに逃走した。

エ 9月12日17時頃、「ブ」市中心部ラバージェ通りの両替所に3人組の武装

強盗が押し入り、従業員と両替をしていたブラジル人観光客から現金を強奪して逃走しようとしたところ、駆けつけた警察官と通行人によって逮捕された。その後の調べによると、逮捕者の中には現役の市警察官 2 名が含まれている事が判明した。逮捕直前に銃撃戦があったとの情報もあるが、確認は取れていない。(当館注：事件現場は、「ブ」市中心部の繁華街であり、連日多くの観光客等の買い物客が訪れる場所である。また、当館から 300 メートルほどの場所でもあるため、昼食等で恒常的に館員も訪れる通りである。)

(2) 殺人

ア 7月7日午後、「ブ」市フロスタ地区において、販売業を営んでいる中国国籍の男性(52歳)が、自宅から出て車に乗ろうとしたところを、バイクに乗って現れた2人組の男から頭部に発砲を受け死亡した。警察は、中国マフィア関連の事件とみて捜査を進めている。

イ 7月30日8時半頃、「ブ」市パレルモ地区において、27歳の男性が自転車で走行していたところ、自転車を盗もうとした武装強盗に遭い、抵抗したため4発の銃弾を受けて死亡した。犯人は、現場を通りかかった女性の自転車を奪って逃走した。事件後、警察による現場周辺の捜索が行われたが、犯人は捕まっていない。(当館注：現場は、当館館員も含め多くの日本人が居住する地域であり、首都中心部への主要通勤経路となっている大通りに面した歩道であった。事件以降、警察官が多く見受けられるようになったことから、警察によるこの地域の巡察が強化された模様である。)

ウ 8月3日5時頃、「ブ」市バルバネラ地区において、25歳から30歳前後のアジア系の男性が路上で何者かによって殺害された。被害者は頭部に3発の銃弾を受けており、警察は、犯行は少なくとも1名以上によって行われ、被害者が所持していた大金(10万7千ペソと4千ドル)は盗まれていないことから、動機について捜査中であるが、被害者は中国国籍であることが判明しており、中国マフィアによる犯行と見て捜査を進めている。

エ 9月23日20時頃、「ブ」州マルデルプラタ市において、57歳のタクシー運転手がバイクに乗った2人組の武装強盗に金品を要求され、渡したにも関わらず発砲されて死亡した。この事件を受けてタクシー労組は、治安改善を求めて道路封鎖及び24時間ストを実施した。

3 テロ・爆弾事件発生状況

手製爆弾等による小規模な爆破事件及びその未遂事件は時々発生しているものの、近年アルゼンチンの治安当局が「テロ」と認定する爆弾事件は発生していない。(大規模爆弾テロは、1992年3月、94年7月にイスラエル権益に対し発生。)

4 誘拐・脅迫事件発生状況

(1) 誘拐事件は、一時期(2003~2004年頃)に比し件数は減少しているものの、依然として身代金目的の誘拐や短時間誘拐(連れ回し強盗)が毎月数件発生しており、被害者になるのは富裕層とは限らないのが実態である。近年においては、車両強盗から短時間誘拐又は誘拐事件に発展するケースがしばしば報道されている。なお、今四半期、邦人誘拐事件に関して、警察当局、被害者及び同親族等からの通報は当館には寄せられていない。

(2) 誘拐事件の事例(今期、当地で報道された誘拐事件を抜粋)

ア 8月5日21時頃、「ブ」州モロン市において、20歳の息子と私有車で走行していた企業家が、車に乗った4~5人組の強盗に襲われ、自宅に連れて行かれて金品を奪われた。犯人は奪った金額に満足しなかったため、現金欲しさに再び被害者2人を別々の車に乗せて拉致し、所持していた現金、携帯電話と車輛を奪い、4時間後に解放した。身代金を支払ったかについては明らかにされていない。

イ 8月14日未明、サンタフェ州ロサリオ市において、68歳の女性がバーチャル誘拐の被害に遭い、現金5万ドルを騙し取られる事件が発生した。警察によると、被害者は、娘を装った女性から、泣きながら、誘拐されたとの電話を受け、その後電話を替わった男に身代金15万ドルを要求された。パニックになった女性は5万ドルしかないと言え、現金を袋に入れて指示された場所に置いた。その後自宅に戻った女性は娘に電話をし、騙された事に気付いた。

5 対日感情

日系移住者の永年にわたる当国社会への貢献もあり、対日感情は良く、親日的なアルゼンチン人が多い。但し、近時、一般の強盗が日系人を襲う例はしばしば見られるようになっている。

しかしながら、中国人や韓国人は、日本人ほど良いイメージを持たれていないと言われており、アルゼンチン人から見れば、日本人は外見上ではそれらの国民と容易には区別がつかないことが多いことから注意を要する。依然として中国人経営の商店では殺人や暴力事案が発生しているが、報道によると中国系マフィアと被害者の間の金銭トラブルが主たる原因とされている。現在までのところ、日本人が間違われて危害を加えられたケースは確認されていない。

6 日本企業の安全に関わる諸問題

日系進出企業が脅迫やバッシング等の嫌がらせ行為の対象となったり、現地で活動展開する上で明らかな阻害要因となりうる事項は確認されていない。(了)